

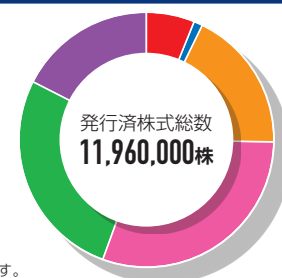
株式状況	(2017年3月31日現在)
発行可能株式総数	19,900,000株
発行済株式総数	11,960,000株
株主数	7,224名

大株主(上位10名)	(2017年3月31日現在)
株主名	所有株式数(株) 持株比率(%)
平澤 創	4,763,460 48.26
BNYM TREATY DTT 10	594,670 6.02
RMB JAPAN OPPORTUNITIES FUND, LP.	527,100 5.34
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	356,563 3.61
吉本興業株式会社	206,870 2.09
DEUTSCHE BANK AG LONDON-PB NON-TREATY CLIENTS 613	171,840 1.74
三菱UFJ信託銀行株式会社	135,000 1.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	124,100 1.25
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	112,200 1.13
CBNY-NATIONAL FINANCIAL SERVICES LLC	107,805 1.09

※当社は自己株式(2,091,180株)を保有していますが、上記大株主からは除外しています。
 ※持株比率は自己株式を控除して計算しています。
 ※持株比率は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。

所有者別分布状況(%) (2017年3月31日現在)

	構成比
■ 金融機関	6.36
■ 証券会社	1.10
■ 外国法人等	17.98
■ その他法人	30.22
■ 個人・その他	26.85
■ 自己名義株式	17.48



※発行済株式総数11,960,000株の構成比率です。
 ※構成比の表示単位未満の端数は、四捨五入して表示しています。

株主メモ	
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
単元株式数	100株
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-782-031
電子公告	電子公告 http://www.faith.co.jp/ir/koukoku/ ただし、電子公告による公告をすることができ ない事故その他のやむを得ない事由が生じた 場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
公告方法	

お知らせ

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会
は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されてい
ない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信
託銀行株式会社が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管
理機関にお問合わせください。
なお、三井住友信託銀行株式会社各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行株式会社の本支店でお支払
いたします。
- 配当金の口座振込をご指定の株主様と同様に、「配当金領収証」により配当金をお
受け取りになれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当
金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の添付書類としてご
利用いただけます。(株式数比例配分方式を選択された場合の配当金のお振込先
につきましては、お取引先の口座管理機関(証券会社等)へお問合わせください。)

免責事項

本報告書に記載されている将来に関する予想については、現在入手可能な情報か
ら得られた当社の経営者の判断に基づいています。実際の業績は、様々な要因の変
化により、異なる場合があることをご承知おきください。
本報告書に記載している会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。



ウェブサイトのご案内
フェイス・グループ各社のサービスや注目のコン
テンツ情報、最新トピックス等を掲載しています。
<http://www.faith.co.jp/>



facebookフェイス公式ページのご案内
フェイス・グループのニュースリリース、最新コ
ンテンツ情報などを随時更新しています。
<http://www.facebook.com/faith.jp/>



株式会社フェイス
〒604-8171
京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町
566-1 井門明治安田生命ビル
<http://www.faith.co.jp/>

お問合わせ先 **TEL. 075-213-3933**
FAX. 075-213-3833

Faith

Annual Report
2016.4.1 - 2017.3.31
株式会社フェイス
第25期 営業のご報告

Faith to Face
いい顔に逢いたくて。

トップメッセージ

10年後、20年後の環境をデザインする視点を共有し グループ一丸となって新市場創出への挑戦に臨む

提供サービスの多様化がさらに加速し 夜明け前の混沌がさらに深まる

2017年3月期は、全体的に多種多様なサービスが生まれ、さらに混沌さが深まったという印象です。ただし、「どこに向かうかわからない」という以前までの混沌とは異なります。デバイスの高性能化・低価格化、通信の高速化なども手伝い、利用目的によるツールの使い分けは確実に進みました。また数年前には驚きをもたらしたウェアラブル端末やVRも今や生活に浸透し始めています。しかし、携帯電話が誕生した時のような革新は起

きていません。

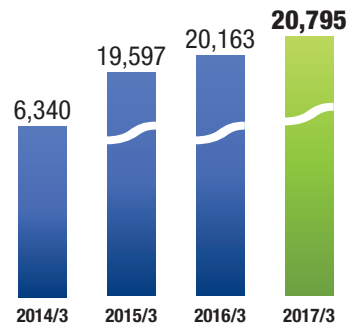
サービスの多様化は加速度的に進み、例えば、スマートフォン向けアプリなどは多彩すぎて、ユーザーはもはや「選べない」状態に陥っています。本流となりそうなサービスの道筋が見えてきた途端、そこを目標けてまた新しいサービスが次々と投入される。それが繰り返されている間は、選択肢が膨張する一方でユーザーの使い勝手は悪くなります。利便性の向上には、本当に必要なモノを選別するためのキュレーション機能が必要だと考えています。

音楽配信も同様の状況で、そうした中

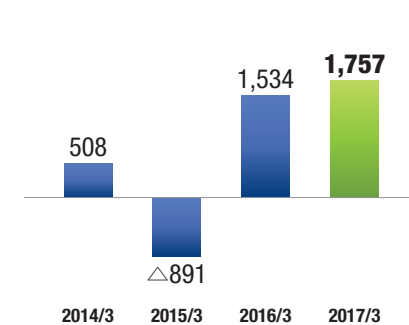
でいくつか出てきている芽をいかに掘り下げ、いかに普及させていくか、新しい時代の本流を制するための挑戦を続ける、まさに持久戦の時に突入しています。

アーティストからユーザーへダイレクトにコンテンツを届ける環境を提供する「Fans」の利用数は確実に伸び続けていますが、浸透にはある程度の時間が必要です。アーティストが今なお、レコード会社との契約を考えるのは、プロモーション活動やテレビ等とのメディア連携によるパワープレイを実施する資金とノウハウを持っているという安心感があるからです。その前提となる、従来型のメデ

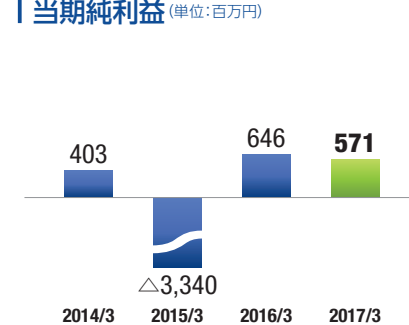
連結売上高 (単位:百万円)



連結営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する 当期純利益 (単位:百万円)



代表取締役社長
平澤 創

Faith、25年の軌跡

これまで「あるものを追うな。ないものを創れ。」の企業理念の下、世界で初めて「着信メロディ」を考案・実用化し、日本発の新しい文化として世界100カ国に定着させるなど、創業期よりコンテンツ流通のしくみ創りへ取り組んできました。コア・コンピタンスである「音」を柱に、今後も多方面の分野においてソリューションを提供し、社会にとって価値ある市場・文化を創造してまいります。

メディアが依然としてマジョリティの支持を得続けているのは、長年にわたり、情報の選択、キュレーション機能を担ってきたからに他なりません。

今は、まさしく時代が変わろうとしている真っ只中にあり、新メディアとして確立されそうなサービスも登場し、確実に支持を集め始めています。ただ、音楽業界から見てメディアとして確立しているかといえば、まだまだテレビの方が強いのが現状です。しかし、10年後、20年後は情報を一方通行で受ける時代から、情報を能動的に受け取る、取りに行く時代となり、テレビのみならず、さまざまな取り組みがその選択肢になってくるのではないのでしょうか。今は、その選択肢が多すぎるため協業なしの単独参入では、サービスが行き届きません。そういう意味でも、特定業界に強い企業とアライア

ンスを行い新しいものを生み出していく、そうした姿勢・考え方が引き続き重要になってくると考えています。

数々の日本初、世界初を生み出すも 創業の想いは未だ「夢半ば」

10月9日に創業25周年を迎えますが、この四半世紀を一言で振り返るならば、「夢半ば」です。創業時に描いていた世の中が変容した将来像には、世の中も、我々もまだ至っていません。会社を設立した1992年の音楽市場はミリオンセラーが連発しており、CD販売が絶頂を迎えていました。しかしその裏で、インディーズレーベルが数多く生まれ、音楽は多ニーズ少生産の時代に入っていたのです。ハードウェアで在庫リスクのあるCDはロングテールの時代には成り立たない、「こ

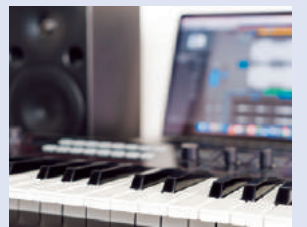
1992



PROLINKS' MIDIカーニバル PMC-1001

京都市中京区に「株式会社フェイス」設立。自社制作の音楽データ「MIDI」を自社ブランド「PROLINKS'」でパッケージ販売開始。

1994



日本初 ニフティ株式会社様と共同で音楽データ「MIDI」の商業配信事業のサービスを開始。

のマーケットはいずれ終わる。インターネットの広がりとともに音楽の流通も変わる」との想いで立ち上げた会社がフェイスです。100年に1度、あるかないかの大きな変革期を迎えつつある今、確かにその夜明け前にはまだ来ていますが、まだ夜は明けていない、だから「夢半ば」です。

よく、「着信メロディ」を考案・実用化し、世界約100カ国で定着させ、新しいコンテンツ流通のしくみと市場を創出したと言う点がフィーチャーされますが、サービス創出の考え方のロジックは同じです。着信メロディ配信誕生の前は、ユーザー自らが「着メロ本」を見ながら数字を入力していました。わざわざ数字を入力しなければいけない着メロ本が80万部も売れていることに違和感を感じ、それならダウンロードビジネスにすればいいと考えました。世の中が普通、必然とし

ていることを不思議に、疑問に思い、そこから進化させる、それがフェイス・グループのあり方です。着信メロディ開始時期は、まさに「携帯電話」が「ケータイ」と呼ばれる時代に移行する瞬間でした。変化が現れる前に、ライフスタイルの角度から少し先読みをしてサービスを創出する、その成果として数々の日本初、世界初を生み出した。それがフェイス25年の実績です。この姿勢は、今後も一貫して変わりません。

フェイスの歴史は挑戦の歴史。レコード会社も次なるステージへ

3月にはドリーミュージックの子会社化、日本コロムビアの完全子会社化を発表しました。より重要なことは、改めて「音楽を文化としていかに後世に残して

いくか」というレコード会社が担う役割、使命を全うする環境を整えることにあります。確かに日本コロムビアは、組織構造の変革により、利益を生み出せる体質になりましたが、事業構造は従前のままです。現状の楽曲ダウンロード、CD販売というメインプラットフォームそのものを変容させなければならぬにこれを伸ばす事業計画を立てざるを得ない状況を続けていても将来は見えてきません。

つまり、日本コロムビア自身が変容に向け、次なるステップに挑戦する時期にきたということです。創業来、フェイスの歴史は挑戦の歴史であり、日本コロムビアもドリーミュージックもフェイス・グループである以上、本気で挑戦しなければなりません。そのためにグループ全体で互いのリソースを活用しあえるよう関係強化を図ること、変容に向けての自

由度を高めることが重要です。

2020年に向け、日本文化を発信するエンターテインメント新展開の実現へ

現在のフェイスの大きな挑戦の1つに、文化発信としてのエンターテインメント新展開に向けた異業種コラボレーションがあります。国内音楽市場は楽曲販売が低迷する中、ライブ興行は順調とされています。しかし、世界マーケットでのイベントのあり方との比較では、規模は小さく、存在価値も低く見られています。例えば、現在、日本では観光立国として2020年までに訪日外国人年間4,000万人を目標に掲げていますが、ドイツのベルリン1都市だけで3,000万人が訪れています。そのうちの約30%はナイトマーケット需要です。世界のホテルでは、日



常に夜間にライブやDJイベントを開催しており、オランダでは新国王の即位式記念イベントでダンスミュージックフェスが行われるなど、身近に楽しむ「芸術」としてその存在が示されています。

我々も東京オリンピック開催に向け、いわゆる日本のエンターテインメントをいかに見せていくか、文化発信の健全な場所の形成に取り組む必要があります。大きなイベントを単発的に開催するのではなく、定常的にいつでも楽しめる場所を作りたい。それには飲食業のノウハウを有する方たちをはじめ、多種多様な業種の方々とのコラボレーションが必要です。昨年3月に発足させた一般社団法人フード&エンターテインメント協会に続き、この4月には国会議員約30名と有識者からなる時間市場創出推進(ナイトタイムエコノミー)議員連盟が設立され、ア

ドバイザリーボード会議メンバーとして招聘されました。その実現に向け、法律や行政、慣習の壁すべて洗い出し、変えるべき法律があれば本気で変えていくことを目指す組織です。

海外展開の挑戦も進展しています。昨年6月にサービス提供を開始したフランスに続き、12月にはインドネシアで事業を開始しました。グローバル展開とは、ローカライズです。フランスならフランスの文化があり、それが分かるのはやはりフランス人です。フランスではすでにアンジェ市の公共施設への音楽配信をスタートさせていますが、今後、行政区ごと横展開していくのか、ミュージアムや図書館などで利用されるサービスとして掘り下げていくのかなど、基軸をどこに置きビジネスを組み立てていくかを見定める、まさにスタートアップの時期に

あります。インドネシアについても実際に動きながら、やはりアンカーの打ちどころを考えながら進めていく計画です。

変化が加速する中、10年後、20年後を想像して自らを取り巻く環境をデザインする視点をビジネスのヒントとし、必要であれば、やり方を変えていく時期にきています。新しい期は、グループ連携を強化し、海外を含め、すべてのグループ会社が新たな挑戦に臨むこと、次の成長に向けての課題をグループ丸となって乗り越えていく道筋を示すことが非常に重要になってくると考えています。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

1996 — 1998 — 1999 — 2001 — 2002 — 2002 — 2007 — 2009 — 2013 — 2014 — 2014 — 2015



CASIO 電送音楽 SZ30W

世界初 カシオ計算機株式会社様と共同で家庭用通信カラオケ「LANA Online City」のサービスを開始。



世界初 当社の音楽配信技術「Web Audio」を実用化したインターネットカラオケ「KaraOK!」で音声コーラス配信サービスを開始。



世界初 現・株式会社NTTドコモ様のiモードで、当社の携帯電話用音楽フォーマット「CompactMIDI」を利用した着信メロディ配信サービスを開始。



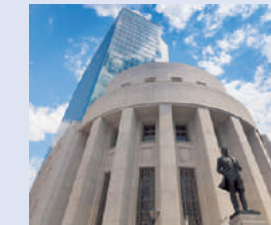
「JASDAQ市場」へ上場。



全米初 米Verizon Wireless様で、16音着信メロディ「Modtones」のサービスを開始。



「東京証券取引所 市場第一部」へ上場。



子会社「株式会社ウェブマネー」が「ジャスダック証券取引所 NEO」へ上場。



世界約100カ国、累計約90億台の携帯端末で当社の着信メロディ配信技術を展開。



日本初 メジャーレコード会社の楽曲が聴き放題のインターネットラジオ「FaRao」のサービスを開始。



株式公開買付けにより「日本コロムビア株式会社」の株式を過半数まで追加取得し、子会社化。



業界最大級の音楽チャンネルと集客機能を備えた業務用BGM「FaRao PRO」のサービスを開始。



アーティストサポートプラットフォーム「Fans!」本格提供開始。

[特別企画] 株式会社ドリーミュージック 宮澤社長インタビュー

新しいエンターテインメントの提供からムーブメントを創出し、 よりたくさんの笑顔を作り出すことが我々の使命



加山雄三、森山良子、小野リサをはじめとしたエスタブリッシュドアーティストから、ファンキー加藤、モン吉、JAYED、Over The Top、Ayasa、CODE-Vまで、多数のアーティストが所属するメジャーレーベル 株式会社ドリーミュージックが2017年3月、フェイス・グループとなりました。

にとっても非常に刺激的なことであり、また、プラットフォームとインフラ、さらにサービスやコンテンツも一体化したワンストップサービスを提供することのできる数少ない企業グループであり、このグループ力を最大限に活用したいと考えております。

の構築が可能になるのでは、と期待しております。

Q フェイス・グループの株主の皆様に向けて、メッセージをお願いいたします。

グループ内における当社の役割は、エンターテインメントを中心に据え、グループ内での連携・連動企画の構築実現により、ユーザーに面白いコト・モノを届けることで利益を創出し、さらに株主の皆様はもちろん、社会に貢献、還元していくことだと考えております。

よりグループ内でのコミュニケーションを密に図り、必ず株主の皆様へ還元できるよう尽力してまいりますので、今後の活動に是非、ご注目ください。

会社概要

商号	株式会社ドリーミュージック
設立	2001年6月27日
事業目的	1) 音楽ソフト、映像ソフト、コンピュータソフト等の録音物、録画物の制作、販売及び小売業務 2) パーソナルコンピューター、携帯電話等によるインターネット接続を利用した情報配信、音楽配信 3) そのほか音楽事業に関する業務
資本金	3億1,021万円

株式会社ドリーミュージック
代表取締役社長

宮澤 憲夫

Q フェイスという会社に対して、お持ちの印象からお聞かせください。

フェイス・グループは、デジタル型配信ビジネスモデルで実績のあった企業という印象でしたが、その一員となり、今では「Faith to Face いい顔に逢いたくて。」というミッションの通り、さまざまな分野でユーザーに対する貢献度の高い「エンターテインメント企業」であるという印象が変わりました。

音楽業界そのものが大きく変わるほどの転機が訪れている中で、常に新たなことにチャレンジし、さまざまな事業・サービスを多角的に展開していることは我々

会社概要

株式会社フェイス	(2017年3月31日現在)
事業内容	コンテンツ配信プラットフォームの開発およびビジネスモデルの構築
設立	1992年10月9日
資本金	32億1,800万円
上場取引所	東証1部(証券コード4295)
従業員数	109名(連結390名)

取締役および監査役	(2017年6月29日現在)
代表取締役社長	平澤 創
取締役副社長	吉田 眞市*
専務取締役	中西 正人
取締役	矢崎 一臣
取締役	佐伯 次郎
社外取締役	樋口 泰行
社外取締役	別所 哲也
常勤監査役	土屋 文男
社外監査役	清水 章
社外監査役	菅谷 貴子

*2017年8月1日付で就任の予定です。

アドバイザー・ボードを構成する社外有識者	(2017年4月1日現在)
島田 精一	元日本ユニシス株式会社 代表取締役社長/スルガ銀行株式会社 社外監査役 あすかアセットマネジメント株式会社 社外取締役/株式会社お金のデザイン 社外監査役 株式会社アドー ビジネス コンサルタント 最高顧問/ぷらっとホーム株式会社 特別顧問 株式会社HS情報システムズ 顧問/内閣官房 産業遺産に関する有識者会議 委員 公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団 評議員/学校法人津田塾大学 理事長 国立大学法人千葉大学 経営協議会委員・学長選考会議委員 学校法人根津育英会武蔵学園 評議員/武蔵学園後援会 会長 一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト 理事長 対外経済貿易大学 客員教授/公益財団法人日伊協会 会長 フィンランドセンター 理事/公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団 評議員 東京二期会 理事/日本ヴェルディ協会 理事
野中 隆史	元みずほ信託銀行株式会社 取締役会長/みずほ信託銀行株式会社 常任顧問
堀 裕	堀総合法律事務所 代表弁護士/日本ローエイシア友好協会 常務理事 内閣府 公益認定等委員会 委員/みずほグループ各社 監査役 在日ロイヤル・ダッチ・シェルグループ各社 監査役 国立大学法人千葉大学 理事・副学長、経営協議会 委員 サハリンLNGサービス株式会社 監査役 公益財団法人国連大学協会 監事 公益財団法人沢沢栄一記念財団 理事
村瀬 清司	元社会保険庁 長官/企業年金連合会 理事長 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 非常勤顧問

フェイス・グループ

コンテンツをユーザーに届けるためのあらゆる機能を有し、ワンストップサービスとしてプラットフォーム化できる企業グループです。

フェイス

コンテンツ配信プラットフォームの開発
およびビジネスモデルの構築

フューチャーレコース

アーティストに関わる著作物の
企画制作・管理

エンターメディア

キャリア公式ファンサイトの構築・運用、
ファンクラブの運営、indiesmusic.comの運営

ライツスケール

日本最初のiTunes公認アグリゲーター
音楽配信ソリューションを提供

ジャパンミュージックネットワーク

音楽情報サイトBARKS運営、Webプロモーション事業、
国内および海外イベントの企画・制作



日本コロムビア

日本最初のレコード会社
ミュージックソフト等の制作、宣伝、出版管理

ドリーミュージック

楽曲制作、プロモーション、イベント企画、
アーティストの発掘・育成

フェイス・ワンダワークス

日本最大の着信メロディサイト運営、
映像制作、プロデュース/音楽、動画等の配信

オーケーライフ

日本最大級の音楽ソーシャルメディア
「OKMusic」企画・運営等

グッディポイント

新たなポイントサービスの創造

ドリームキャブ

楽曲制作、プロモーション、イベント企画、
アーティストの発掘・育成

*本文書に記載されている商品・サービス名は株式会社フェイスの日本またはその他の国における商標または登録商標です。